

第2回経営発達支援計画事業評価委員会 会議録

- 1 招集通知 平成29年 2月 2日 (木)
- 2 開催日時 平成29年 2月22日 (水) 13:30~15:00
- 3 開催場所 瀬戸内市商工会 本部2階会議室
- 4 出席者 9名
委員長 福池 幹夫 (商工会副会長)
副委員長 福崎 勇 (商工会副会長)
内部委員 石田 茂樹 (経営支援事業委員会委員長)
藤井 雅司 (経営支援事業委員会副委員長)
山口 卓男 (地域振興事業委員会委員長)
神坂 俊規 (地域振興事業委員会副委員長)
岡竹 時江 (女性部長)
外部委員 松本 直也 (中小企業診断士)
岡 洋介 (瀬戸内市産業振興課課長補佐)
欠 席 内藤 国光 (青年部長)
- 5 議長 福池 幹夫
- 6 議事の運営要領及び議案別審議の結果

(開 会)

午後1時30分、事務局(岡本事務局長)から第2回事業評価委員会を開催する旨を宣し、続いて、福池委員長が開会あいさつを行った。

<あいさつ趣旨>

- ・小規模支援法の改正により商工会は小規模事業者に寄り添った伴走型の支援が求められている。
- ・①需要の動向調査、②事業者の経営診断、③経営計画の策定・実行支援、④販路拡大支援、これらの役割を果たしていかなければならない。
- ・瀬戸内市商工会の経営発達支援計画も2年目を迎え本格的な取り組みの段階に入った。
- ・本委員会に置いて、事業成果を正しく認識評価し、さらに効果的に経営発達支援計画が計画に基づき推進できるよう、しっかりと協議していただきたい。

(協議事項)

①平成28年度事業の実施状況報告について

I 平成28年度経営発達支援計画に基づく実施事業・進捗状況

福池議長は事務局に説明を求め、事務局（松本支援課長）は「I平成28年度経営発達支援計画に基づく実施事業・進捗状況」について、全体的な取り組みを資料1に基づき説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言があった。

松本委員：創業支援の数字が19件と非常に多い。瀬戸内市は創業しやすい地域なのか？若い方が多いのか？また、地域おこし協力隊が多く創業するから多いのか？

松本課長：創業者の中には商工会が創業支援の機関であることを認識されていない方も多く、また、商工会が創業者に直接的に働きかけることは難しくもある。創業者は行政に相談することも多々あり、瀬戸内市は定住促進や空き家対策事業を強力に推進し、また、創業助成金の支給による創業支援をしていることから創業者の相談を多く受け付けている。日頃から商工会は瀬戸内市の産業振興課と密に連絡を取り合い連携しているため、市への相談者を創業相談の受け皿として支援を行っている。

松本委員：市への相談者は地元の方が中心ですか？

松本課長：移住による創業も多く、こうした創業は牛窓地域に多く感じている。

松本委員：経営革新セミナーに11事業者が参加されていて、経営革新の承認が2件というのは少ないのではないかと？

松本課長：経営革新というどうしても支援先が限定的であったり、取り組みに躊躇する事業所も少なくない。支援の裾野を広げるためにも、セミナーの対象を経営革新の承認を目指す事業所にとらえずに、新たな取り組みのための事業計画の策定を目指す事業所と位置付けて支援したためであり、これらの支援は承認されたものの他に12件実施している。また、これらの事業所を経営革新の承認事業所の支援対象として継続的に支援することにより翌年度以降の承認を目指したい。

福崎副委員長：行政としては創業支援をどのように進めているのか？

岡委員：先ほど松本支援課長が述べたように、商工会と連携のもと創業塾を開催している。まずは参加していただき、創業後、わずかではある

が助成金を拠出している。また、設備投資に係る中小企業活性化利子補給制度やマル経の利子補給制度により、支払い利息に対し補給金を拠出している。

福崎副委員長：移住者は本当に多いのか？

岡委員：おそらく、多いほうであるといえると思う。地域おこし協力隊も3件程度創業し、来年度も雇用を計画している。

福崎副委員長：瀬戸内市のどのような魅力によるものなのか？

松本委員：住みやすいうえ、土地もあまり高くなく、働く場所もあり、不足するものもあまり感じられず魅力は大きい。

福崎副委員長：人口は微減傾向にあり、魅力を活かし行政はさらに人口増に取り組んでもらいたい。

松本委員：フォローアップの実績は支援回数、支援事業所数どちらか？

松本課長：支援事業所数であり、支援回数はもっと多い数値である。

II 経営支援事業について

「伴走型小規模事業者支援推進事業実施報告」・・・資料2
(重点的な取り組み)

- ・魅力ある商品、看板メニューづくり事業・・・資料3
- ・参加事業者アンケートのとりまとめ・・・資料4
- ・経営計画に基づく伴走支援成果のとりまとめ・・・資料5

福池議長は事務局に説明を求め、事務局（松本支援課長）は「II 経営支援事業について」について、資料2、資料3、資料4、資料5に基づき説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言があった。

福池議長：当地域の事業所において、積極的に新事業に取り組む事業所ばかりではない。高齢化や後継者不足によるゆるやかな事業の縮小や事業の拡大ではなく維持、継続の考えも少数ではない。こう言った事業所の支援も重要である。

福崎副委員長：高齢化と後継者不足の問題はあらゆる業種で深刻化してきている。

福池議長：商工会は幅広い事業者の支援も必要である。20代から30代の若い世代や定年退職後の創業などのような積極的な事業所ばかりでもない。また、大店法の改正により、事業縮小を余儀なくされた事業所も多くある。こうした事業所もしっかりとサポートするのが政策

にとらわれず商工会には必要である。

松本課長：幅広い事業所の支援にも取り組みたいと考えている。例えば、講習会やセミナーの開催においては、テーマを多様化させ、受講対象を広げることに努めている。セミナー参加などをきっかけにワンステップ上の支援につなげていきたいと思っている。

藤井委員：やる気のある人は補助金等の情報にも敏感でチャンスを逃さないが、情報に気づかない方も多くいるように思う。情報に疎い方にもわかりやすく支援の情報を伝えてほしい。幅広い層の事業所の底上げが、結果的には街のレベルアップにつながる。

Ⅲ 地域振興事業について

- 「地域振興事業実施状況報告」・・・・・・・・・・資料 6
- ・お買物環境等に関するアンケート調査調査票・・・・・・・・資料 7
- ・お買物環境等に関するアンケート集計結果・・・・・・・・資料 8

議長は事務局に説明を求め、事務局（石原支援 2 課長）は「Ⅱ 地域振興事業について」について、資料 6、資料 7、資料 8 に基づき説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言があった。

福崎副委員長：買物難民については、尻海地区にあるように高齢化、人口減少に加え地域商業の衰退により問題になっている。これらの課題に対し、商工会が直接的な事業展開をすることにアンケートを活用していくのか？

石原課長：最終的に商工会が取り組むのか、多様な取り組みを織り交ぜ行政へ提言していくのか、来年度以降検討を進めていきたい。とりあえずはアンケートによる調査をしたところである。

福崎副委員長：こうした地域への出店や移動販売は、行政の支援策がなければ、採算が合わず、単独では事業展開が困難である。

福池議長：計画も着手したばかりで、アンケートのサンプルも多くない、また、これから地域の高齢化も進み環境も変化していく。今後、さらに協議を進める必要がある。

②平成 29 年度事業の取組みについて

- Ⅳ 平成 29 年度実施事業計画の骨子(案)・・・・・・・・・・資料 9

議長は事務局に説明を求め、事務局（松本課長、石原支援2課長）は「IV 平成29年度実施事業計画の骨子(案)」について、資料9に基づき説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ、次のような発言があった。

神坂委員：着地型の観光というのはどのようなものを検討しているのか？

石原課長：商工会では具体的にはまだ取り組んでいない。来年度新規に取り組んでいきたい。長船町の観光協会が昨年度に着地型の観光に取り組んでいるので参考にしていきたい。

神坂委員：長船では取り組んでいるが、牛窓町、邑久町の地域においても取り組めるようであれば取り組んでほしい。

③その他

V その他

議長は「その他」何かないか諮ったところ何もなかった。

本日の協議の結果を理事会へ提案していくと述べ、議長の座を降壇した。

(閉会) 福崎副委員長は、閉会のあいさつを述べ終了した。時に、午後3時00分であった。